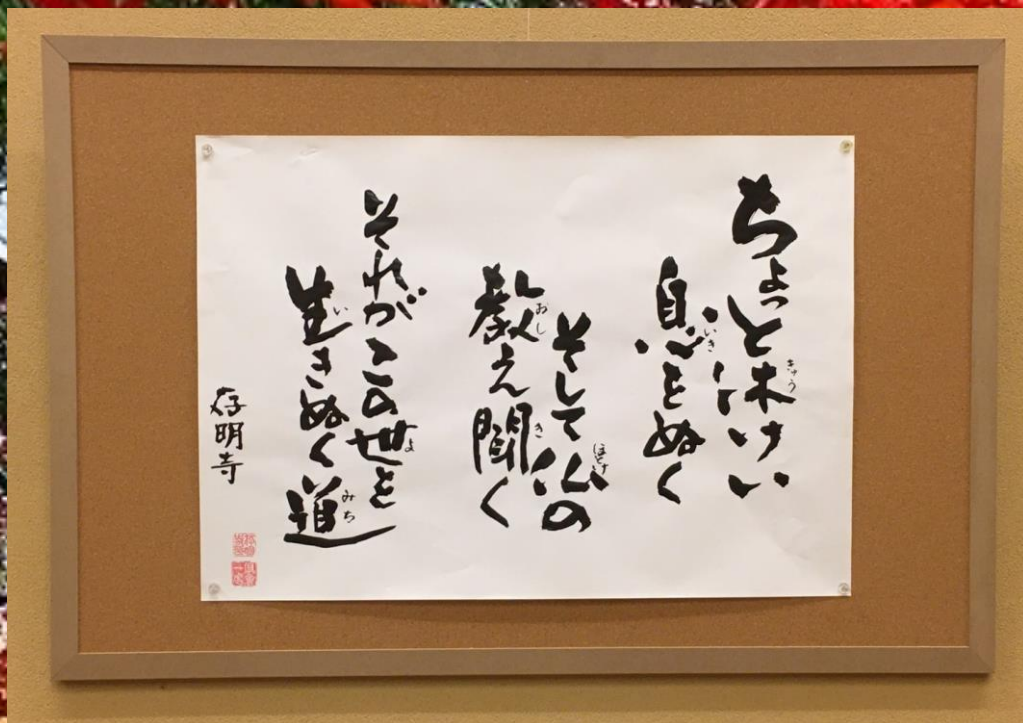




真宗大谷派 存明寺通信

No.204

2021年(仏歴2552年)11月3日発行



存明寺の工書は
こちらから
←
←
←

しんらん であ
親鸞と出会うお寺

<https://zonmyoji.jp>

屋久杉やくすぎのこころ

—生きてきた証—あかし

酒井 義一



鹿児島県の南に位置する屋久島には、屋久杉という名の杉が自生しています。屋久島に生えている杉はすべて屋久杉なのかというと、そうではなく、樹齢千年以上の杉を屋久杉と呼ぶのだそうです。たとえ樹齢九八〇年であっても、それは小杉と呼ばれます。千年という時を経た杉だけが、屋久杉となるのです。

ところで、杉の寿命はどのくらいかという、五百年ぐらいだそ

うです。五百年しか生きられない杉が、屋久島では千年も二千年も生き続けるのです。

では、屋久島の環境は、杉にとってそれほど豊かなのでしょうか。実はその逆です。屋久島は九州で一番高い宮之浦岳みやのうらだけという山があります。火山でできた島なので、岩がゴツゴツしていて、栄養分がありません。土を求めてどこまでも根を張りまわります。邪魔になるような石があっても、誰もどけてはくれません。自らが倒れないために、石を包み込むように根を張るのです。杉はどどん高く伸びようとします。しかし、屋久島は強い台風が通るところ。大きな台風が来ると、手足がもがれるようにして、枝が折れてしまうこともあります。「あの台風さえなければ」「夢だったら」ぶつけようのない気持ちに沈みます。

長い時間が流れました。屋久杉の折れた傷跡は、やがて立派なコブに成長していました。杉が流し

たたくさんの樹液じゆえきという涙が、いつの間にか大きく立派なコブとなつていったのでした。

人間が生きていく上には、石のように行く手を阻む出来事があります。あの事さえなければと感じるようなことも起こります。そして時には、手足をもがれるような痛みや辛さを感じることもあります。身近な人との悲しい別れは、まるで雷に打たれるかのような辛い出来事。しかし、そのような人生にあつて、辛いことは忘れていく、邪魔な石はどけていく、ということとは違う生き方があるということを、実は屋久杉は、私たちに教えているのではないのでしょうか。

行く手を阻む石のようなことがあれば、それを包み込んでいく。手足をもがれるような痛くて悲しい傷は、コブになつていく。まるでそのことを屋久杉はすでに実践しているかのようです。困難を積み重ねながらも、立派なコブが出来上がっていったことは、屋久杉の「生きてきた証」であつたので

す。

浄土真宗の宗祖・親鸞聖人は『唯信鈔文意』の中で次のように語られます。

つみを、けしうしなわずして、善になすなり

(聖典一〇七二)

南無阿弥陀仏の世界は、罪や悪というものを消し失わずに、善や徳へと変え成す世界なのだということです。言葉をかえれば、流した涙がやがて行く手を照らすひかりにかわるということでしょうか。

幾多の苦難を体験し、時を大切に積み重ね、自分にしか出せない生きてきた証を持つ屋久杉のすがたに、消さず失わずという親鸞聖人の世界が重なって感じられてきます。



お寺の近況報告

◆お寺の行事は、いま…

お寺での「樹心の会」などの間法会（同朋の会）は、コロナの中、オンライン Zoom と生参加という、選べるふたつの参加方法で実施しています。

遠くは滋賀県や北海道からご参加される方もおられ、今までにならぬ広がりを感じています。

しかし、本当は直接お会いして触れ合える日を願っています。

◆お彼岸やおぼん法要…

お彼岸や報恩講などのお寺の年中行事も、同じようにオンラインと生参加にて実施中です。ただし、感染対策を徹底し、距離をとって、時間は短縮、食事はお休みしています。

せっかくの機会なので、2022年からは YouTube を使ってお寺の法話会や報恩講などの催しを配信したいと考えています。そのための技術的な準備を整えつつあります。

YouTube 配信、乞うご期待。

◆こども食堂は6周年に

コロナの中、現在はテイクアウトという形でこども食堂を運営しています。メニューは、定番のキーマカレーのほか、タイ風カレーや肉団子スープなどの月替わり。その数はおよそ70食。

お弁当を取りに来たこどもたちは、しばしの間お寺の境内でスタンプたちと遊んでいきます。

コロナの中にあっても、人は心の奥底で、人と人との触れ合いを願っています。

◆こども会は10月から再開

コロナの影響で4月から一度も開くことができなかったこども会。感染対策をしながら10月に久しぶりに再開しました。

参加したのは15人の元気いっぱいの子どもたち。お寺で宝さがしをして楽しみました。

子どもたち一人ひとりと直接会い、おはなしをして、じゃれあい、いっしょに遊ぶ。あらためて感じます、いいものですね。

これからもお寺を自分の居場所にしてほしい、そう感じています。

お寺の近況報告



↑お寺の行事はオンラインと生参加で。



↑お彼岸法要もオンラインと生参加。



↑こども食堂は9月で6周年に。



↑10月に再開したこども会（宝さがし）

お寺のひろば 2021年(令和3年)と2022年(令和4年)



オンライン ZOOM でのご参加は
←こちらの QR コードか、または
↓下記の URL からお入り下さい。
存明寺 HP から入室可能です。
(申し込みは不要です)

<https://qr.paps.jp/JsvkY>

ミーティング ID: 996 9885 4678 パスコード: 102266
※当日に入室できない場合は、お寺までお電話下さい。



年内のお寺のひろば 2021年

- 11月13日(土) 14時 樹心の会
内容: 勤行・お話・語り合い
 - 12月4日(土) 14時 グリーフケアのつどい
人数制限(10名程度)の上、実施します。
 - 12月11日(土) 14時 樹心の会
内容: 勤行・お話・語り合い
お話: 井上憲司さん&酒井義一住職
- ※2021年に行う予定だった「真宗本廟奉仕団」(京都市)は無期限延期し、時期を見て必ず実施します。

2022年のお寺のひろば

- 1月1日(土) 10時 修正会
 - 3月4日(金) 13時 おそうじの日
 - 3月12日(土) 14時 樹心の会
 - 3月21日(月) 11時と13時 春のお彼岸法要
 - 3月26日(土) 14時 グリーフケアのつどい
 - 4月9日(土) 14時 樹心の会
 - 4月28日(木) 10時 おみがきのつどい
 - 5月3日(火) 12時 永代経法要
 - 5月14日(土) 14時 樹心の会
 - 6月11日(土) 14時 樹心の会
 - 6月25日(土) 14時 グリーフケアのつどい
 - 7月9日(土) 11時 新盆法要
 - 7月13日(水) 11時と13時 お盆法要
 - 8月27日(土) 午後 青年のつどい
 - 9月10日(土) 14時 樹心の会
 - 9月16日(金) 13時 おそうじの日
 - 9月23日(金) 11時と13時 秋のお彼岸法要
 - 10月1日(土) 14時 グリーフケアのつどい
 - 10月15日(土) 14時 樹心の会
 - 10月28日(金) 10時 おみがきのつどい
 - 11月2日(水) 14時 報恩講のゆうべ
 - 3日(木) 10時 報恩講法要
 - 11月12日(土) 14時 樹心の会
 - 12月10日(土) 14時 樹心の会
 - 12月17日(土) 14時 グリーフケアのつどい
- こども食堂・子育てサロン・こども会も、工夫をしながら実施していきます。

あとがき

▼このところめっきりと寒くなってきました。この季節、身に沁みて感じるのは、あたたかさの有難さです。夏では感じることできなかつたこと。それを感じられるのは、冬のだいご味なのではないでしょうか。

▼私たちの人生もそうなのかもしれません。寒さや辛さや生き苦しさがあるからこそ、あたたかな教えの世界に、心からの有難さを感じる事ができる…。そんなあたたかさに出会う歩みを、お互いに大切にしていきたいものです。

(住職・釋諦信)



東京都世田谷区北鳥山4-15-1
真宗大谷派 存明寺
住職 酒井義一(釋諦信)
〒157-0061 TEL 03-3300-5057
FAX 03-3300-5880
E-mail : sakai@zomyoji.jp